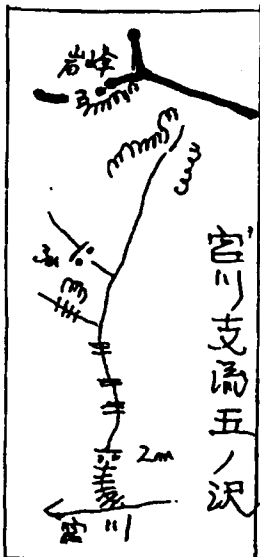


## 宮川支流五ノ沢(仮称)

1989年8月12日

山本不動尊から徒歩10分程で五ノ沢(仮称)出合に着く。五ノ沢は、水量こそ少ないが、水のきれいな沢である。5:25遡行開始。

出合すぐのナメを越すと、2mの小滝。細かなホールドを拾って登る。結果的に



いうと、この小滝が五ノ沢唯一の滝。あとは小さなナメが切れ切れに出てくるだけであった。

沢の切れ込みが大きくなってきたあたりから、沢には大小の石がゴロゴロしてきた。どこかで崩落があったようである。水はその間を時々伏流となりながら切れ切れに流れている。やがて右岸から支沢が合流する。このあたりから兩岸の随所に崩落地が見られるようになった。崩落の規模は大きくないが、個所が多い。そのうち水流はすっかり崩落した土砂の下となってしまった。

兩岸に所々崩落した岩場が見えてくると、もう源頭である。最後は右岸の岩場のすそづたいに登り、5:55尾根に出る。

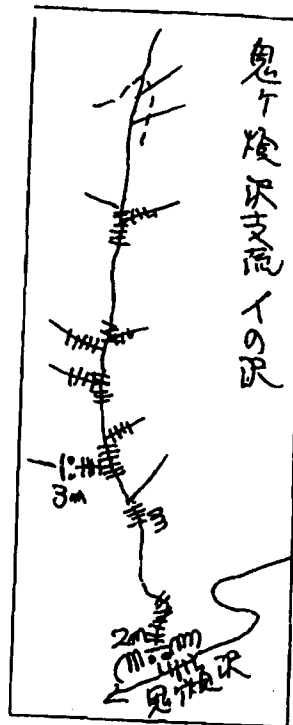
[タイム] 山本不動尊(5:10)→五ノ沢出合(5:25)→五ノ沢終了(5:55)

## 鬼ヶ煩沢支流イの沢

1989年8月12日

イの沢(仮称)は居伝金部落のそばで鬼ヶ煩沢と合流する小沢である。ただ、地図とは合流点がちょっと異なるようである。鬼ヶ煩沢の湾曲部にはなく、その下流部で合流している。

11:35遡行開始。出合には2mの小滝がかかる。そしてその小滝を両側からガードするような感じで築塊岩の岩塔がそそりたち、切れ込みも深く、ちょっといい雰囲気。しかしそれは出だしだけで、あとは平凡な登りが源



頭まで続いていた。出合の小滝を除くと滝はなく、集塊岩のナメが断続するだけ。  
12:10明るい伐採地に出た所で遊行終了とする。 (記・

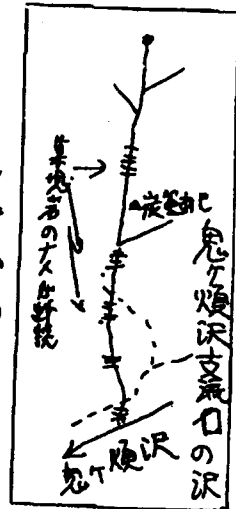
[タイム] イの沢出合(11:35)→終了(12:10)

### 鬼ヶ煩沢支流口の沢

1989年8月12日

口の沢(仮称)は、居伝金部落のはずれで鬼ヶ煩沢と合流している。小さな沢で水量も少ない。しかし、水流が源頭まで続き、そんな中、集塊岩のナメが断続して出現する。滝はかからなかった。遊行開始10:35, 終了11:10。所要時間35分の短い沢登りであった。 (記・

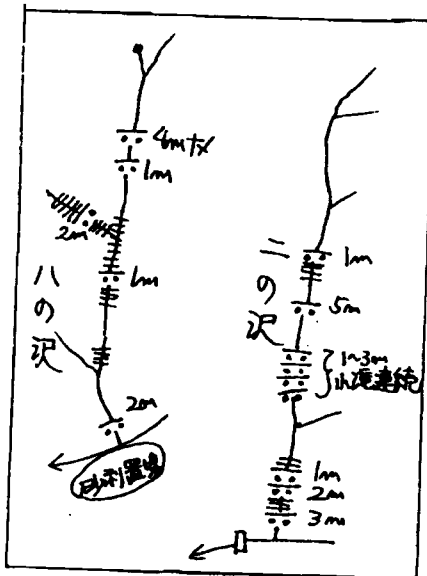
[タイム] 口の沢出合(10:35)→沢終了(11:10)



### 鬼ヶ煩沢支流ハの沢

1989年9月3日

ハの沢(仮称)は、八溝探石の砂利中間ストック場の向いで鬼ヶ煩沢に合流している。8:40遊行開始。小さな沢で、出合すぐに2mの小滝をかけたほかは、細々とした流れが源頭まで続いている。周囲はよく生育した杉林。その中を次第に水量が少なくなってゆく。やがて小さなナメ。そしてそこを過ぎたら、傾斜が急になってきた。ホールドがいっぱいの4mナメ滝を越すと、もう水の流れは極端に乏しくなる。そして沢には倒木が多くなる。右岸上部には五来山林道から派生していると思われる林道が走っている。もうこの辺で良かろうと、9:05遊行終了とし、この沢(仮称)めざして左岸の樹林帯に入り込む。



ハの沢(仮称)は、八溝探石の砂利中間ストック場の向いで鬼ヶ煩沢に合流している。8:40遊行開始。小さな沢で、出合すぐに2mの小滝をかけたほかは、細々とした流れが源頭まで続いている。周囲はよく生育した杉林。その中を次第に水量が少なくなってゆく。やがて小さなナメ。そしてそこを過ぎたら、傾斜が急になってきた。ホールドがいっぱいの4mナメ滝を越すと、もう水の流れは極端に乏しくなる。そして沢には倒木が多くなる。右岸上部には五来山林道から派生していると思われる林道が走っている。もうこの辺で良かろうと、9:05遊行終了とし、この沢(仮称)めざして左岸の樹林帯に入り込む。